

令和2年度老人保健健康増進等事業

介護サービスにおける科学的介護に資するデータの収集・活用に関する調査研究事業

株式会社三菱総合研究所

厚生労働省では、平成28年度より通所・訪問リハビリテーションデータ収集システム（VISIT）、令和2年5月より高齢者の状態やケアの内容等データ収集システム（CHASE）を運用しており、令和3年4月1日より、これらの一体的な運用を開始するとともに、科学的介護の理解と浸透を図る観点から、名称を「科学的介護情報システム（Long-term care Information system For Evidence; LIFE ライフ）（以下「LIFE」という。）」とする予定である。

また、令和3年度介護報酬改定において、科学的に効果が裏付けられた自立支援・重度化防止に資する質の高いサービス提供の推進を目的とし、LIFEを用いた厚生労働省へのデータ提出とフィードバックの活用による、PDCAサイクル・ケアの質の向上を図る取組を推進することとしている。

LIFE収集項目の整理等については、「科学的裏付けに基づく介護にかかる検討会取りまとめ」において、「日中の過ごし方」等の試行的な項目についてはモデル的なデータ収集を行ってフィージビリティ等を含めて引き続き検証することとされた。

また、同検討会において、ADL維持等加算等で採用されているBarthel Index（BI）についてはADLアセスメントツールの基本とすることが示されると同時に、幅広い職種が同じ評価をできるようにすること、項目の共通化・統合・読み替え等の取組を継続することが必要とされた。

そこで本事業では、試行的な項目について、以下を目的とした。

- ① 職種の異なる評価者によるBI評価の信頼性を検証する
- ② 介護老人保健施設で普及しているADLアセスメントツールの一つであるICFステージングとBIとの評価の相関等を検証する

上記の目的を踏まえ、本事業では以下の内容を実施した。

1. 職種の異なる評価者によるBI評価の信頼性検証
介護老人福祉施設と介護老人保健施設において、医療従事者（理学療法士等）と介護職員が同一の利用者に対してBIによるアセスメントを行った。
当該結果を用いて、BIの項目ごとの一致率およびカッパ係数を算出し、検者間信頼性を検証した。
2. ICFステージングとBIとの評価の相関等の検証
主に介護老人保健施設で普及しているADLアセスメントツールの一つであるICFステージングとBIとの評価の相関等を検証した。
3. 項目定義が未確定の項目に関する検討
「科学的裏付けに基づく介護にかかる検討会取りまとめ」において、フィージビリティ等を含めて引き続き検証することとされた項目（以下、「項目定義が未確定の項目」）について評価負担等を含めた具体的な検討を実施した。